

連載

株式評論家 山本伸一の

兜町スタンダード

エルピーダ破綻で影響を受けた銘柄の反撃が始まる！



先々週の前回コラムで「好地合いだからこそ資金効率の追求を」と題して、好地合いのもと活発な資金循環が期待でき、値幅取り妙味に優れる「低位株」「仕手系株」ら「資金効率」を意識した投資対象の優位性を取り上げていた。

しかしながら、先週月曜日にエルピーダメモリ（6665）が会社更生法適用を申請し受理されたと発表。事実上の経営破綻となり、すぐさま東証も整理銘柄に指定し、3月28日の上場廃止を伝えた。火曜日のストップ安売り気配から、水曜日の値幅制限撤廃で場中に寄り付くと数円の値幅取りを狙ったマネーゲームに発展。同社株の資金集中で「低位株」の需給環境は逆風下に置かれた。

仕手系色の強い新日本理化（4406）などは新値追いを強める動きを見せたが、他の「仕手系株」の物色も偏っている。株価指数は高値推移が続く好地合いのもと、物色の裾野の広がりも期待されたが、エルピーダ（6665）破綻で資金循環が一時的に滞ってしまったようだ。

ただ、徐々に同社株の売買も減少傾向。今後は改めて「資金効率」が意識されてくるだろう。恒例の「厳選5銘柄付き市況分析レポート」では、昨年にも採用した「バイオ」テーマを抜擢したい。昨年は震災直後の波乱相場のなか、季節性の追い風もあって、提供した厳選銘柄が着実な実績を挙げた経緯がある。

このレポートに興味を持たれた方は、弊社に直接問い合わせしてほしい。